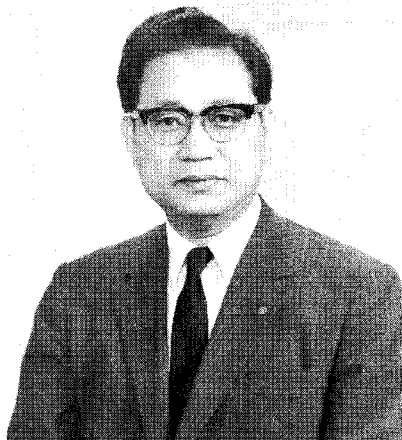


関先生の学士院賞御受賞を祝して



藤代亮 一*

このたび、日本熱測定学会の創始者でいらっしゃる関集三先生が学士院賞を受けられることになりました。大変おめでたいことでございます。僭越ながら本学会員一同になりかわりましてお祝いを申し上げますと存じます。

関先生を存じ上げるようになりましたのは三十数年も前の、私が体をこわして阪大にご厄介になったときでございます。お会いするとすぐにちょうどその時発行された日化誌の掲載論文のことが話題となったように覚えています。それはこの有名な関先生の初期の報告「分子性結晶の蒸気圧」だったと思います。それにささやかな私の報告もたまたまそれに載っていたからです。関先生は私の報告を読んでいたられて適確な質問をされ、私はしどろもどろでした。残念ながら私は関先生の論文を読んでいなかったからです。後に皆さんに聞きましてところ、関先生は大いなる文献に目を通されているので有名なんだとのことで全く驚かされてしまいました。それから実験装置を見せていただくことになりましたが、拝見して、自分の実験がはずかしくなってしまったのでございます。それほど装置の精度といい、物質の純度といい立派なもので当時としては最上のものであったに違いありません。本当の実験とはこういうものかということをお教えたからです。今でこそ装置の精度はもちろんのこと、とくに純度はずい分問題にされますが、関先生は三十数年も前にちゃんと心掛けておられたわけなのです。

それに当時といえば、物理化学では分子構造がはやかな脚光を浴びており、化学熱力学は古典的なものとして見向きもされないときでしたから、熱力学を真正面から取組んでゆかれる情熱には本当に感銘した次第です。

戦後の荒廃から立上られてからの関先生のお仕事はもう皆さんがよくご存知のとおりでございます。伝導型熱量計、断熱型熱量計などの精度のよい数多くの熱量計、さらには燃焼熱測定用の熱量計の製作をされ、阪大理学部をして日本での化学熱力学のセンターにされたわけでございます。もちろんこれらの精度のよい熱量計を駆使して多くの測定をされておりまして、中でもガラス性結晶の発見と研究は固体物理の分野で最もすぐれたものの一つといわれております。そういうわけで関先生が「固体の構造熱力学的研究」によって受賞されましたことは当然なことといえると思います。

どうかご自愛いただき、いつまでも当学会をご指導下さいますようお願いいたします。

* 大阪市立大学理学部教授・日本熱測定学会前会長